

大阪と京都で7.20パレード 反迫害24周年

法輪功学習者（以下、学習者）は7月15日と16日、大阪と京都で「7.20」反迫害パレードを行い、中国共産党（以下、中共）による法輪功への迫害の即時停止を訴えた。多くの議員や評論家が集会でのスピーチまたはメッセージで、学習者への支援を表明し、迫害を非難した。パレードは、沿道の人々から支持と励ましを受けた。

日本法輪大法学会の稲垣会長は「今年の7月20日で、中共が法輪功への迫害を開始して24年目となります。学習者たちは一貫して努力を重ねており、日本の

人々や政府にこの迫害の真実を理解してもらいたいと願っています。現在、社会情勢が変化しており、ますます多くの日本の国民や政府が中共の暴虐と残忍さを理解し始めています。私たちは引き続き迫害に反対し、より多くの人々に法輪功が迫害されている実態を理解してもらうために努力します」と語った。

前衆議院議員、人権弁護士が迫害に反対

7月15日の正午過ぎ、大阪の愛染公園でパレード出発前に集会が開催された。前衆議院議員の長尾敬氏と

弁護士の徳永信一氏がスピーチを行った。

長尾氏は、中国での臓器狩りの事実が明らかになった際、国会議員として断固として反対を表明した。同氏は、中共による人権弾圧の恐ろしさについて、学習者がしっかりと情報発信することの大切さを訴え、「暗い闇の中に一寸の光があり、中共からの人権弾圧を力強く押しのけていきましょう」と語った。

人権弁護士である徳永氏は、「人々に迫害の真実を訴えるために集まっている学習者たちの勇気に大変感動を覚えています。今日のパレードに私もこうして参加できることを大変光栄に思っています。勇気こそが良心の出発です。その勇気をもって日本と世界における信仰の自由、基本的な人権、法の支配、民主主義を守るために声を上げていきましょう」と語った。

議員、評論家から声援メッセージ

また集会では、多くの議員や評論家からのメッセージが読み



■大阪でのパレード

上げられた。参議院議員の山田宏氏はメッセージで「中国政府による臓器収奪は、人類史上類を見ない犯罪行為であり、文明の進歩に逆行する蛮行として、私も国会において何度となくとり上げてきました。日本政府は、中国政府による非道な人権迫害に対し強く抗議の声をあげ、一日も早く止めさせるための行動をとってゆくべきと考えます」と表明した。

衆議院議員の石橋林太郎氏はメッセージで「法輪功をやって

いる…ただそれだけの理由で連行されることなど本来あってはならないことです。中国共産党の力による独善の矛先は、我が国を含む近隣諸国に対しても向けられており、我々にとっても明白な脅威です。この状況を改善するために、より一層皆様との連携を深め、強く大きい声を挙げていきたいと思っております」と表明した。

評論家の三浦小太郎氏はメッセージで「今、中国では歴史上もっとも残酷な政権が、最新の



■前衆議院議員の長尾敬氏



■人権弁護士の徳永信一氏

科学を悪魔の道具として使い、最悪の人命破壊を行っています。その一つが臓器収奪であり、人間の命をお金に換える悪行です。悪に対し、皆さんが、真実の中国の伝統である、礼と正義の精神で立ち向かっている姿は、必ずや天の歴史に通じているはずで、その志を貫徹されることをお祈りいたします」と声援を送った。

大阪の人々がエールを送る

会社の面接を受けるために公園を通りかかった水谷さんは、中共による法輪功への迫害について「時々YouTubeで見るとありますが、テレビなどのメディアでは報道されていませんよね？ 私は時々、立場の弱い人たちやグループが迫害を受けている動画のコメント欄に支持のメッ

セージを残しています。中共による迫害は事実上の戦争のようなものです。皆さんの力で平和を取り戻していきましょう」と語った。

パレードの沿道にある飲食店で働く小出さんは、「法輪功については知りませんでした。音楽が聞こえたので外に出てパレードを見ることにしました。中共の圧力にも屈せず、自身の信念に基づいて行動することは素晴らしいことです。頑張ってください」と語った。

愛知県から観光に訪れた佐藤さんと大道さんは「私たちは迫害に反対します。どうか負けずに頑張ってください。無実の人々から臓器を摘出することは絶対に許されません。パレードを通じて、みなさんが伝えたいメッセージを十分理解できました」と語った。

京都市民が迫害を非難

7月16日の京都での反迫害パレードは、ちょうど日本三大祭りの一つである祇園祭の最高潮の時期と重なった。3連休でもあり、また感染症対策の制限が解除された直後だったため、京都市内は大勢の人々で賑わっていた。パレードは京都の御池大橋を出発し、京都の数多くの観光名



■京都でのパレード

所を通り抜け、人々の関心を集めた。

パレードの情報を知った浜田さんは、出発地点の御池大橋を訪れ、「人の臓器を売買することは人権侵害であり、罪のない人から臓器を摘出することは殺人と同じです」と語った。

和田さんは迫害に関する説明を聞いた後、「生体臓器狩

りが起きることは絶対に許されません」と語った。

世界各国からの観光客が学習者を応援

フランスから来たマッシュウさんと友人はパレードを見て、日本語で「頑張ってください」と言い、そしてフランス語で「Bonne chance（幸運をお祈りします）」と続けた。

ドイツのフランクフルトから来た学生のマリアさんは以前、人権や中国について専攻していた。マリアさんは迫害に関する記事を注意深く読んだ後、「皆さんは迫害されていて大変だと思いますが、正しいと思うことに立ち上がって闘い続けていれば、きっと状況は変わると私は思います。頑張ってください！」と語った。

カナダ・バーリントンでパレード

カナダ・トロントの法輪功学習者（以下、学習者）は6月17日、オンタリオ州バーリントンで開催された「サウンド・オブ・ミュージック・フェスティバル」のパレードに参加した。パレードには天国楽団と腰太鼓隊が出場した。沿道の人々は、法輪功のパレードを、拍手と歓声で歓迎した。

天国楽団は、翌日にもウェランドで開催された「バラ祭り」のパレードに参加した。

「心身の健康のために法輪功が必要」

スーシーさん一家は、沿道に座りパレードを観賞していた。彼女は携帯電話で天国楽団を撮影し、「とても上手に演奏していたので録画しました」「音のバランスが良く、協調が取れています」とコメントした。

天国楽団のメンバー全員が学習者だと知ったスーシーさんは、「私は真・善・忍に100パーセント賛同します。家族にも法輪功を紹介します。私たちは皆、心身の健康のために法輪功を必要としています」と語った。

介護者「真・善・忍は万物を包容している」

訪問介護の仕事をしているサラさんは、夫と一緒にパレードを見ていた。サラさんの夫は、「天国楽団の演奏を聴くのは初めてです。非常に優秀な楽団で、とても好きです」と言った。

楽団のメンバーは皆、法輪功を学んでいる人達で、真・善・忍に従って行動し、同時に煉功と座禅を通して健康を手に入れていると聞いたサラさんは共感し、「私も座禅する習慣があり



■「バラ祭り」のパレードで行進する天国楽団

ます。座禅は効果があることを知っています」と話した。

また、サラさんは、「真・善・忍は万物を包容

しています。穏やかな心理状態で生活をし、ネガティブ（な感情）に振り回されることなく、悪い考えを体外に出すことができます。このポジティブな生活が

人々に幸福をもたらすのです。学習者が様々な地域に行き、より多くの人々に法輪功を伝えていることを嬉しく思います」と語った。

サモアの学校・政府機関で功法を紹介

ニュージーランドの法輪功学習者（以下、学習者）は6月9日から16日まで、サモアの首都アピアとサバイイ島で法輪功を紹介した。多くの人々が興味を抱いて法輪功を学び始め、学習者に感謝した。

今回、学習者はサモアの58の小中学校と幼稚園、81の教会を訪問。法輪功を紹介すると、多くの学校や教会で功法の実演と指導を要請された。

「必ず、この素晴らしい功法を学び続ける」

サバイイ島の学校で、煉功を習った女性教師は右肩の痛みが消え、腕を上げることができるようになった。女性教師は学習者の手を取り、いつまた来てくれるのかと尋ね「私は必ず、オ

ンラインでこの素晴らしい功法を学び続けます」と語った。

そして、生徒一人一人には法輪功の資料が配られ、今後はウェブサイトでも学び続けることが可能となった。

アピア東部の中学校では、校長が講堂にテーブルを運び込ませ、功法を教える学習者をその上に立たせて、生徒が見やすくした。生徒は4つのグループに分けられ、功法を習った。そして校長は法輪功の資料を配布し、今後は功法をビデオで学ぶようにと説明した。

官邸で法輪大法を紹介 テレビ局が取材に

学習者がサモア官邸で法輪功を紹介したところ、政府職員7人が煉功を学んだ。修煉によって恩恵を受けたエピソードを学

習者が披露すると、職員は感動した。ある大臣秘書は「たくさんの薬で病気を治すのが好きではないんです。もっと自然な治療法で治せると思います」と語った。別の職員は「私はこれ（功法）を教会の人々に伝えます」と言った。

ある大臣は法輪功を知り「皆さんの努力に感謝し、全面的に支持します！」と述べた。大臣の秘書は「皆さんは天使のようです。私は毎日オンラインで法輪功を勉強します」と語った。

サモアTV3テレビ局のスタッフ2人が官邸を訪れて撮影し、インタビューも行った。彼らは「今何がトレンドか」というタイトルで煉功を教える番組を制作し、法輪功について学ぶ機会を得たことを喜んだ。

「宇宙からの贈り物」

学習者は首都やサバイイ島だけでなく、遠く離れた地域でも法輪功を紹介した。多くの方が法輪功に大きな関心を示し、中には学習者に感謝し「これは宇宙からの贈り物だと思います」と語った人もいた。

学習者が中国共産党による迫害を伝えると、もっと多くの情報を知りたいと言う人もいた。

インドの校長「子ども達は法輪功が本当に好き」

インドの法輪功学習者（以下、学習者）は、アイザウル公立英語小学校の児童を対象に法輪大法の紹介イベントを行い、同校の教職員と児童から好評を博した。

学校で説明会を開催

アイザウル市はインド北東部にあり、マンマーに近い。ムンバイ出身の学習者であるネハさんとその家族は、同校の管理者に連絡をとった。そして法輪功は無料の気功であり、真・善・忍の理念に従って道徳を高めると伝えると、管理者は法輪功の説明会の開催を快諾した。ネハさんは、合わせて中国共産党による法輪功迫害の実態についても伝えた。

説明会の当日、ネハさんは、朝礼の20分間で法輪功の概要を説明し、幼稚園から小学5年生までの児童に簡単な功法の実演を行った。実演後、教職員は、もっと功法を詳

しく教えてほしいとネハさんに要望した。

美しい煉功音楽

ある教職員が「煉功の音楽は、とても美しいですね。煉功の時間を伸ばしてくれませんか」と要望した。説明会は45分ほど延長され、ほとんどの教職員と児童が参加した。

校長から感謝

別の教職員が児童に「家に帰っても法輪功を続けてみたいと思う人はいますか」と聞いたところ、大多数の児童が手を挙げた。

校長はネハさんに感謝し、また法輪功を教えに来てほしいと依頼した。そして「子ども達は法輪功が本当に好きです」と語った。

ネハさんは、法輪功の資料を教職員と児童に配布した。その後、近くの公立チャンマリ中学校の教職員もネハさんを招き、法輪功の説明会を開催した。



■法輪功を学ぶサモアの学校の先生と生徒たち

横浜の気功教室に通う学習者 恩恵を受けた体験

神奈川県横浜市の横浜公園は有名な観光スポットで、地元市民の憩いの場でもある。法輪功学習者（以下、学習者）は毎週日曜日、この横浜公園に集まり共に学んでいる。

煉功場（気功教室）の世話人である馬さんは、「午前中に煉功と学法、午後は資料配りをして、法輪功への迫害の実態を伝えていきます。私は資料の補充や

道路の使用許可の申請などを担当しています」と語った。

馬さんは「困難な課題に直面しても、皆がお互いに協力すればどんなことでも上手くいきます」「学習者の素晴らしい行動を見ると、自分自身も心性を高めることができ、すごく勉強になります」と、学習者の協力と団結の力に感銘を受けたと語った。

馬さんによると、1998年の中国では多くの人々が法輪功を学んでいたと言う。馬さんもそうした環境で法輪功の修煉を始めた。それが日本に来てからは、仕事の忙しさ等から、続けることができなくなった。しかし2004年、偶然の機会があって再び修煉の道に戻ったという。馬さんは以前、食品加工業を営んでおり、忙しさとストレスによって身も心も疲れ果てていた。修煉を始めた後、法輪功の理念を学びながら自己を向上させ、以前の体の不調が消え去った。体も心も軽やかになり、家庭の雰囲気も和やかになった。

多くの執着心を取り除いた

根本さんは2010年に法輪功を学び始め、今年ですでに13年目になる。当時、家族がマッサージを受けた後、すごく良く



■根本さん

効くと言ったので、根本さんは気功を学んで、人々に施術してお金を稼ごうと考えた。

根本さんは煉功場の人と連絡を取り『轉法輪』を借りて読んだ。根本さんは本の中に「気功で病気を治療してはいけない」と書かれているのを

見て、気功治療をしようとする気持ちを捨てた。

法輪功は全て無料で、自分自身を鍛える気功である。根本さんは、「真・善・忍」の理念に照らして、多くの執着心を取り除き、顕示心も減ったと言う。



■馬さん

前向きな考え方が身についた

中国人学習者の佐藤さんは、2001年に母親の勧めで修煉を始めた。以前は健康上の問題を抱えており、子育てについてもネガティブな考えばかりだった。

『轉法輪』を読んで学び、煉功を続けるうちに、胃の不調と

低血糖は消え去り、前向きな考え方が身につき、子育ても楽しくなった。日常の出来事を自己を高めるための機会と思えるようになり、心身ともに楽になった。

甲状腺の病気が良くなった

藤野さんは、法輪功を学んで健康になった母親の変化を目にして、興味を持った。

修煉を始めて2~3ヶ月後、藤野さんは病院では治らなかった甲状腺の病気が良くなったことに気付いた。以前は数段の階段を上るだけでも非常に疲れていたが、現在は階段の上り下りも全く苦にならなくなった。7時間のポスティング作業も問題なくこなせるようになった。



■佐藤さん



■横浜公園で煉功

心穏やかに介護できるようになった

島本さんは怠け者で遅刻癖があり、責任感がなく、無責任な行動を取り、物欲や食欲も強かった。現在、島本さんは毎日母親の介護

に携わっている。毎日同じことの繰り返しでも、彼女は心穏やかに母親と接することができ、心の底から母親に対する愛情を抱くようになった。

戸田さんは2005年5月に修煉を始め、自己流ではど

こか違うと感じ、煉功場に通うことにした。「今まで本やインターネットを参考にしていたものとの違いを感じました。新しい自分が産まれたような気がして、純粋な気持ちになれました」と語った。



『法輪功』（ファールンゴン）

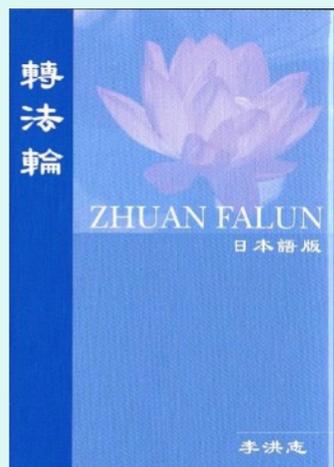
1993年に中国で発売され反響を呼んだ話題の一冊。心身ともに健康になる中国伝統の気功修煉法「法輪功」の入門書。



無料で読む



書籍を購入



『轉法輪』（ジュワンファールン）

1996年に中国北京でベストセラーとなった。「真・善・忍」を理念とする法輪功の修煉を、体系的に指導する最も主要な書籍。



無料で読む



書籍を購入

上海のソフトウェアエンジニアと婚約者に不当判決

上海の法輪功学習者・何氷鋼さん（46）と、婚約者の張軼博さんは2021年10月9日、長寧区の国内安全保衛部門（法輪功迫害の実行機関）の警官らに不当に連行された。そして、今年6月12日、何さんに懲役6年、張さんに懲役5年の不当な判決が言い渡された。何さんに対する判決が下されたのはこれで三度目となる。

何氷鋼さんは3回、計17年間の実刑判決

何氷鋼さんは、才能あるソフトウェアエンジニアであり、人助けを喜びとし、思いやりのある優しい人である。1991年に「盲人用パソコン音声ソフト」を開発し、「第六回上海市億利達青少年發明賞」を受賞、「第六回全国發明賞」の銀メダルも受賞した。当時、何さんはまだ15歳だった。1994年には復旦大学への進学も推薦され、試験が免除された。



■何氷鋼さん

しかし、法輪功を学んでいるとして、2000年に大学院で勉強中だった何さんは復旦大学を強制休学され、拘禁された。何さんは2007年に解放された後、会社を設立した。しかし2010年4月、何さん

は再度不当に連行された。そして拘禁期間中に酷く迫害を受け、脊椎圧迫により四肢に障害を引き起こした。上海市の長寧地方裁判所は2011年、何さんが障害を引き起こしているにもかかわらず、何さんに懲役5年の実刑判決を宣告した。

張軼博さんは以前、数種類の病気に罹っていたが、法輪功を学んで健康

張軼博さんは懲役5年の不当判決

張軼博さんは以前、数種類の病気に罹っていたが、法輪功を学んで健康



■張軼博さん

になった。張さんは外資系企業でビジネスマネージャーを務めたことがあり、聡明で能力が高く、会社の上司からも高く評価されていた。しかし2009年、張さんは懲役1年6カ月の不当判決を言い渡された。

何さんと張さんは2021年10月9日に、自宅に押し入ってきた警官らに連行され、家宅搜索をされた。2022年2月、警官らは捏造したいわゆる事件ファイルを検察庁に提出し、同年3月、裁判所に提出した。

何さんは留置場に拘禁されていた際、古傷が再発し、病状が悪化している。弁護士によると、何さんは横になったまま歩くこともできなくなった。椎骨の損傷で何さんは眩暈がし、頭痛、夜間の睡眠障害、さらに失禁も引き起こしているという。張さんの体も非常に良くない状態であり、胸に腫瘍ができたという。

広東省で一家が何度も迫害を受け、母親が死亡



■留置場で過酷な労働を強いられる

広東省揭陽市の法輪功学習者（以下、学習者）陳曉彬さん一家はこれまで何度も迫害を受けた。2017年5月、陳さんと息子・呉旭欽さんは再度不当に連行され、それぞれ懲役2年6カ月、7年6カ月の不当判決を下された。

冤罪を受けた陳さんは心身ともにダメージを受け、痩せこけて手も足も力が入

らず、今年5月に死亡した。享年48歳。息子は未だに刑務所に拘禁されている。

陳さん夫婦が連行

陳さんと夫は法輪功を修煉した後、心身ともに恩恵を受けた。しかし、1999年に法輪功への迫害が始まり、夫・呉梅平さんは北京へ陳情に行った時に当局に殴られて負傷した。2002年、中国共産党第16回全国

代表大会が開催された時、陳さん夫婦は洗脳施設に拘禁され、子供3人（長男は当時7歳）だけが家に残った。2003年、夫婦2人は再び連行され、留置場に拘束された。

陳さんと息子が拘禁

2017年5月22日、陳さんの息子・呉旭欽さんは勤め先の会社で社長らとともに不当に連行された。さらに警官らは呉旭欽さんの自宅へ行き、母親の陳さんも連行した。陳さんと、息子の呉旭欽さんたちはその後、留置場に拘禁された。

2019年5月、裁判所は揭陽市610弁公室の指示により、陳曉彬さんに2年6カ月と罰金1万元（約20万円）、息子・呉旭欽さんに7年6カ月と罰金4万元（約80万円）を科した。

陳さんが拷問され衰弱

陳さんは揭陽市留置場に2年以上拘禁されていた際、長期にわたって過酷な労働を強いられたため、月経異常、手足の脱力や硬直などの症状が現れ、極度に衰弱した。

中国共産党の20年以上にわたる法輪功への迫害で、陳さん一家は大きなダメージを受

けた。陳さんは出所後、生計を維持するため、夫と共に毎日苦勞して細々と小さなビジネスをするしかなかった。一時的に自由の身になったものの、息子は拘禁されたままであり、極度の精神的プレッシャーを感じていた。陳さんは身体がなかなか回復できず、今年5月1日に死亡した。



『明慧二十周年報告書 中国で起きている20年間にもおよぶ法輪功への迫害』

電子書籍(PDF版)購入はこちら



過去20年間、中国本土の法輪功学習者が直面してきた迫害状況の記録。

中国共産党が他国の指導者や企業を脅迫することにより、海外まで迫害の手を拡大してきた実態が記されている。

生体臓器狩りの厳罰化法案を支持

台湾新北市の超党派議員

世界中の多くの国で中国共産党（以下、中共）による生体臓器狩りの残虐行為を制止する人権活動が推進されている。台湾の立法院でも「生体臓器狩りの取締りおよび防止法」の制定が推進されており、地方の県議会や市議会も提案の形で支持を表明している。

新北市議会の6人の超党派議員の提案には23人の議員が連署し、計29人の議員が立法化を支持した。提案では、中共による生体臓器狩りの残虐行為を市民に知らせることを市政府に求めると同時に、国外での臓器売買を禁止する規定を提唱し、市民に違法な臓器移植に関わらないよう呼びかけた。

最大の被害者は中国の法輪功学習者

「生体臓器狩りの取締りおよび防止法」の提案には、「国際組織や人権団体、および各国政府による長年の調査報告や専門家の分析により、生体臓器狩りや臓器売買は中共政権が主導した暴挙であり、最大の被害者は中国の法輪功学習者であると確認された」といった内容が記載されている。

世界中で生体臓器狩りの根絶を期待

今回の提案の発起人である新北市・民進党議員の李宇翔氏は、「私たちの支持表明を通して、台湾全土の人々が（中共による）生体臓器狩り

の実態を深く知り、世界でこのような生体臓器狩りが発生することを根絶できるよう期待しています」と説明した。

新北市の民進党議員である戴瑋姍氏は、「人権という普遍的価値において、私たちはすべての人の生存権とすべての人権を、しっかりと守らなければなりません」と述べた。

総統選挙候補者の侯友宜氏陣営のスポークスマンで、国民党議員の呂家愷氏は、「台湾は、生体臓器狩りに反対するという立法の精神を重視し、暴力に反対し、優しさを支持します」と述べた。

民進党議員の林銘仁氏は、「人間を臓器移植バンクにす



■民進党議員の李宇翔氏（右から2番目）と国民党議員

る行為は、国際社会から制裁を受けるべき」と述べた。

国民党新北市議員の周勝考氏は、「全台湾の議会がフォローしていくことを望みます」と語った。

民進党議員の顏蔚慈氏は、「台湾の進んだ科学技術と医

療チームが、知らず知らずのうちに不透明な臓器移植の共犯者になってほしくありません。今回、新北市議会は超党派のこの提案を可決することで、生体臓器摘出が根絶され、全世界に向けて発信されることを願っています」と述べた。

「工作員のスパイ活動の黒幕は610弁公室」

米ナショナル・レビュー誌

ロサンゼルス親中華僑リーダーである陳軍と林峰が逮捕された事件で、『ナショナル・レビュー』誌はジャーナリストのジミー・クイン氏の記事を掲載した。記事によると、中国共産党（以下、中共）の「610弁公室」が裏で指揮していたとFBI捜査官が示唆している。同室は、法輪功学習者（以下、学習者）に対する弾圧キャンペーンを実行する部署であり、法外な権力を有する。

免税資格剥奪の陰謀

メリック・ガーランド米司法長官は「中国政府の影響力を米国領土にまで拡大しようとする取り組みを引き続き調査し、くい止め、起訴していく」と述べた。

起訴状には、被告の陳軍と林峰が内国歳入庁（IRS）の職員に5万米ドルの賄賂を支払い、法輪功の非営利団体の免税資格を剥奪しようとしたと記されている。2人はロサ

ンゼルス在住で、陳軍は米国籍、林峰は中国籍である。

フリーダム・ハウスの指摘

フリーダム・ハウスは「中国全土の学習者は広範な監視、恣意的な拘束、投獄、拷問を受けており、超法規的処刑に遭う可能性が高い」と指摘している。

陳軍と林峰は中共政府高官と協力し、法輪功の団体が非

営利資格を濫用していると内国歳入庁に内部告発していた。

FBI捜査官の示唆

FBI捜査官のエリック氏は、中共公安部の610弁公室が裏で指揮していたと示唆した。被告2人は内国歳入庁の職員を装った覆面捜査官と会い、法輪功の団体への監査調査の見返りとして5万ドルを約束したが、訴状によれば、陳軍と林峰の告発では、法輪功の団体の非営利資格の剥奪にはつながりにくいという。

米司法省の起訴

米司法省は、国境を越えた中国の反体制派への尾行や嫌がらせに対して起訴処分としている。4月には2人のニューヨーカーが、中共の秘密警察を違法に運営していた容疑で起訴された。

中共の工作員は、贈賄賂で米政府機関に繋がり、嫌がらせ等の計画を進めている。連邦検察当局による2022年の他の訴訟では、反体制派の個人情報入手しようとするものもあった。

欧州議会議員「法輪功への迫害は解決すべき」

フランス、ドイツ、オランダ、ベルギーの法輪功学習者（以下、学習者）は6月27日、ベルギー

のブリュッセルにある欧州議会の前で集会を開き、24年間も続く中国共産党（以下、中共）によ

る法輪功への迫害を制止しよう、欧州議会に呼びかけた。

欧州議会議員のラース・パトリック・バーク氏が集会に駆けつけ、活動に関心を抱いていると表明し、明慧記者のインタビューに応じた。

バーク氏は、中共による法輪功への迫害について「学習者が迫害され、甚だしきは投獄までされて非常に腹立たしいことです」とコメントした。同氏によると、これは欧州連合（EU）、欧州議会と中国の代表の間で議論し、解決すべき問題だという。

「解決案を示す必要がある」

迫害が24年間も続いていることについてバーク氏は、「これは（取り組むべき）非常に重要な問題ですが、同時に非常に難しい問題でもあります」と言う。「しかし今こそ解決案を示す必要がある時期です。なぜなら、ここまで長く続いているからです。これは、中国（中共）とEUの相互にとって不利益なことです」

迫害の真実の状況を知るため、同氏は長時間にわたり学習

者から話を聞いた。そして、中国で迫害を受けた学習者の劉玉梅さんに、迫害の実態を尋ねた。

劉さんは「中国の刑務所でさまざまな残酷な拷問を受け、何日も体と首を地面に固定されました。ハンガーストライキで抗議しても、無理やり管で食べ物を注入され、九死に一生を得ました。家族4人が法輪功を修煉しているとして迫害され、死亡しました」と答えた。

これを聞いたバーク氏は同情を示し、学習者と写真撮影した。



■欧州議会議員ラース・パトリック・バーク氏（右）

7.20迫害はなぜ起きたのか？

1999年7月20日、中国共産党（以下、中共）は国家機関のすべてを総動員して法輪功への迫害を発動した。この迫害は今年で24年目となり、今や全世界に及んでいる。毎年「7.20」は迫害停止を呼びかける記念日として、世界各国

で「反迫害活動」が実施される。

1992年に中国で伝えられた伝統的な気功修煉法である「法輪功（ファールゴン）」は、心身の健康への高い効果によって、口コミで中国全土で愛好者が増えた。中

国体育总局の調査によると、1998年には7,000万人が法輪功を学んでいた。また、官製メディアにも紹介され、東方健康博覧会では最高賞を受賞した。

しかし1999年、天津市で法輪功学習者（以下、学習者）45人が不当に逮捕される事件が起きた。4月25日には釈放を求めて北京で1万人の平和陳情（以下、「4.25平和陳情」）が行われた。当日のうちに解決されたと思われていたが、約3ヵ月後の7月20日、突如として全国的な迫害が始まった。国民の人気を集め、政府からも推奨されていた法輪功が、なぜ迫害のターゲットになったのだろうか？



■北京の東方健康博覧会で法輪功が最高賞を受賞



■四川省成都市の公園で煉功

4.25から7.20までの経緯

「4.25平和陳情」は学習者の穏やかさと善良さを示した。数多くの学習者が、法輪功の「真・善・忍」の理念を自らの言動をもって

表した。当時の朱鎔基首相のこの問題に対する和解的な対応も合わせて、国内外から高く評価された。しかしこのすべてが、六四天安門事件で学生を弾圧することでキャリアを積み上げた江沢民（当時の国家主席）

を恐怖や嫉妬に陥れ、江沢民による正気を失ったかのような迫害が始まった。

1999年4月25日の夜、江沢民は、毛沢東が文化大革命を起こすために行った「司令部を砲撃せよ」の手法を真似て、政治局全員に宛てた書簡をしたためた。その書簡には「我々共産主義者が信じるマルクス主義、唯物論と無神論は、法輪功が広めている一連のものに勝てないと言うのか？」と書かれていた。この書簡はその後、中共中央弁公庁によって内部通達として発行され、特に以下の注釈が付

された。「本通達が求めているのは、協議や研究討論ではなく、学び徹底することだ」

こうして始まった大規模な政治的な迫害を確実に実行させるため、江沢民は6月7日の中央政治局会議で談話を発表した。この談話は6月13日、中共の内部で秘密裏に伝達された。江沢民は、他の6人の政治局常務委員の反対を押し切り、執拗に法輪功への迫害を押し進めた。

法律を超越した「610弁公室」

1999年6月10日、江沢民は李嵐清を主任とし、羅幹と丁関根を副主任とする「法輪功問題処理指導グループ」を設立し、中共中央委員会から各レベルの党委員会にまで同グループを設けた。その設立日から「610弁公室」とも呼ばれている。

文化大革命時代の革命委員会、ナチス時代のゲシュタポに似たこの恐ろしい組織は、各レベルの地方政府に浸透しており、法律をも超越する。各地の公安、検察、裁判所、労働収容所、および刑務所を操り、洗脳班を設置させ、善

良な学習者を迫害し、数え切れないほどの罪悪を犯してきた。

一方で1999年6月14日、中央および國務院の陳情処理室は中国本土の新聞やラジオ、テレビを通じて「いかなる功法や宗派も禁じていない」と一斉に公表した。江沢民らは裏で迫害を企てつつ、そうした煙幕を放って迫害を隠蔽した。当時、山東省の役人はこれを「緩兵の計」（敵との決戦をわざと遅らせ、時間を稼ぎ機会をみて攻撃する戦法）と呼んだ。

文化大革命の再来

1999年7月20日未明、江沢民の指示の下、全国で大規模な逮捕が始まった。「名誉を汚し、経済的に破綻させ、肉体を消滅させる」、そして「打ち殺しても自殺とみなす」という政策の下、全国のメディアは、法輪功へのデマをでっち上げて流布させた。

古都西安では、7月20日午前6時10分ごろ、多くの警官が一斉に西安市内の法輪功の各煉功場（学習者が集まって気功をする場所）に現れ、逮捕状等の書類も見せずに強制

的に横断幕を回収し、煉功音楽を流していたスピーカーを奪い取り、指導員や招集者を警察車両に強制連行した。午後2時頃、天津市では十数人の学習者が警官に殴られ、強制的にパトカーに引きずり込まれた。

全国各地で大勢の学習者が拘束・逮捕され、拷問の末、無惨に殺害された。文化大革命が再来したかのようだった。

天安門事件の再来

7月21日、遼寧省撫順市の街頭では、1989年の「六四天安門事件」と同様に、天安門広場で人体をもって軍用車両を止める光景が見られた。同日午前、多くの学習者が撫順市政府を訪れ、不当に逮捕さ

れた学習者の釈放を平和的かつ理性的に求めた。

市政府は学習者との面談を拒否し、武装した兵士や警官を大量に動員し、学習者に解散を迫り、さもなければ武力で連行すると脅した。しかし学習者は、問題が解決されていないため立ち去らなかつた。政府は武装警察に強制逮捕を命じ、多くの学習者が逮捕され、車に乗せられた。

学習者を乗せた車が出発しようとしたとき、1人の学習者が勇敢にも道路の真ん中に突進し、車を正面から停車させながら叫んだ。「行ってはだめだ！ 人を逮捕してはだめだ！」。その直後、続々と学習者が駆け寄り、道路の真ん中で車を遮った。



■天安門広場で大勢の法輪功学習者が暴行され、連行された

しばしの膠着状態の後、大勢の武装警官が暴力を振るいはじめた。彼らは道路の真ん中にいた学習者をつまみ上げて投げ飛ばした。ある者は地面

に、ある者は群衆の中に、ある者は後ろの学習者の身体に投げ飛ばされて、一時は大混乱に陥った。

今なお続く迫害

それから24年、迫害はやむどころかエスカレートしている。生きたままの学習者の身体から移植用の臓器を強制的に摘出し、国内外に売却することまで中共政府が主導している。日本からも多くの患者が中国へ渡航し、知らないうちにこの違法な臓器ビジネスに加担しているのだ。

学習者は政権には何の興味もなく、自分達の心身を鍛える気功である法輪功を学びたいだけだ。「4.25平和陳情」は、その自由を求めたものだった。中共は今日に至っても、「真・善・忍」の理念を学ぶ学習者を無惨に殺害している。

孔子は徳を重んじ社会の気風を正す

皆さんは、孔子の「己の欲せざる所は、人に施すことなかれ」という言葉をご存知だと思います。分かりやすく言えば、「他人に押し付けない」ということです。もう一つの言葉の「己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達すべし」は、他人に対する責任と、心を尽くして助けることの大切さ、つまり「忠」の大切さを説いています。

孔子にとって、仁・義・忠は人間が持つべき基本的な徳目です。人間としてのあり方も行いも、仁と義の徳目に沿ったものであるべきなのでしょう。

孔子は政治に参与し世を正した

孔子は56歳の時、司法官として就任し、喜色満面になりました。これを見た弟子は「君子は大難が来ても恐れず、大幸が来ても喜びを見せない」と聞いたことがあります。孔子は「其の貴を以って人に下るを

楽しむ（高い地位にいて人に尽くすことが嬉しい）」と言いました。

孔子は大官であった少正卯（しょうせいぼう）を処刑しましたが、その3カ月後、「豚や羊を売る商人は不当に高値を要求しなくなり、男女は別々に道を歩き、道に落ちたものを取る者はおらず、各地から魯の国にやってくる旅行者は、役人に賄賂を渡さなくても、まるで故郷にいるように、すべてにおいて満足のできるサービスを受けられるようになった」と記録されています。このような社会の気風と生活環境は、現代においても必要とされるものではないでしょうか。

少正卯が処刑された理由

少正卯は春秋時代の魯国の大官であり、「少正」は周王朝の官職で「官職を苗字とする」のが普通であり、卯が名前です。少正卯は弟子を受け入れて講義し、孔子のほとんどの弟子が何度も聞きに行き

ましたが、顔淵（顔回）だけは動じませんでした。顔淵は、孔子が直接褒めた10人の弟子の1人で、その高い品行が評価されていました。顔淵の師に対する忠誠心は、彼の高潔さを証明しています。

少正卯の死後、孔子の弟子たちは、なぜ孔子が少正卯を処刑したのかを理解できず、質問しました。孔子は、少正卯には人間が持つ五つの悪い性質があると答えました。それは、「心が陰険であること。行為が卑劣で改めないこと。言葉が偽善で、弁が立つこと。古今東西の醜聞に精通していること。非道に従っていないがら正当化するのがうまいこと」でした。

孔子が人を評価する基準は徳を測ることに基づいており、徳がなく度を越えた者は不仁不義であり、社会に有害で役に立たない存在と見なしました。

少正卯の処刑は、後世の言説、特に漢や宋の時代においては、主に「賢者が裏切り者を治める」という意味でよく

登場します。もちろん、歴史書の作者によって異なる解釈や説も存在します。

少正卯の処刑後、彼の講義の内容は学説や教義としては歴史に残りませんでした。ある学者は、その根本的な理由を「少正卯は技巧の人であったが、方法と技術があっても、仁義と道徳を持たない人間は、一時的に栄えても短命で、結局は人間社会から淘汰されるだけだ」と分析します。

おわりに

孔子の治世の効果と少正卯の処遇を見ると、孔子が人としての徳を非常に重視していたことが分かります。もちろん、孔子が語ったのは「中庸」であり、善徳とは欠点がないことや完璧さを意味するものではありません。「十哲」と呼ばれる孔子の10人の



弟子はそれぞれ、徳行（顔淵、閔子騫、冉伯牛、仲弓）、言語（宰我、子貢）、政務（冉求、子路）、文学（子由、子夏）の分野において優れていたため、『論語』に記録されています。10人全員が完璧ではありませんが、人間としての物事の対処の仕方 で発揮された美徳が孔子に認められたのです。

中国古代の物語（孝行編）

堯（ぎょう）、舜（しゅん）、禹（う）は、古代中国の三皇帝です。彼らは皆極めて高い道徳基準で身を律していたため、四方から推薦されて帝位にまで上がりました。

その中の一人である舜は「孝に極まる」ことによって天地を感動させ、堯帝に後継者として選ばれました。舜の話は、歴代の孝行物語の筆頭として語り継がれています。

舜が貫いた孝行

舜が即位した後の国号は「虞（ぐ）」であり、彼は「虞舜（ぐしゅん）」とも称されました。

虞舜の姓は姚で、名を重華といます。父の瞽叟（こそう）は道理をわきまえない頑固な人で、舜に対する接し方も良くありませんでした。舜の母の握登は才徳兼備な人でしたが、舜が幼い頃、不幸にも逝去しました。後に父親は再婚し継母を迎えましたが、継母は婦徳のない人でした。弟の象（しょう）が生まれて

から、父親は継母と弟を偏愛し、彼ら3人は共に舜をいじめ、何度も殺そうと企みました。しかし、舜は両親に孝行し、兄弟と仲良く付き合い、家庭を睦まじくするために全力を尽くしました。舜は生涯をかけてこの目的に向けてたゆまず努力しました。

謙虚な孝行

舜は小さい時から両親に責められると、「きつと僕のごこが悪かったのだ」と考えました。彼は自分の言動に注意を払い、反省し、両親を喜ばせることしか考えませんでした。弟から理不尽なことをされても怒るどころか、かえって自身が良い手本になっ

てあげられなかったと深く自責しました。

時には畑で大声を上げて泣き、「どうして両親を喜ばせることができないのか」と自問しました。人々は年端も行かない彼がここまで孝行するのを見て、深く心を打たれました。

言い伝えによれば、舜の親孝行は郷里の人々だけでなく、天地万物まで感動させました。彼は山石や草木、そして、鳥や動物たちとも仲良く付き合い、動物たちはよく手伝いに来たそうです。徳行の力を目の当たりにした人々は、驚き敬服しました。しかし、舜は謙虚で従順でした。

全国各地に知れ渡る孝行者

時間が経過すると、舜の親を大切にすることはますます称賛され、舜は最高の孝行者として全国各地に知れ渡りました。

堯帝が86歳の時、後継者を探し帝位を受け継がせたいと望みました。大臣たちは舜を推薦しましたが、理由は舜が有名な孝行者だったからです。このことから、君主を選ぶ際には、孝行を最も大切な品格として考えたことが分かります。親孝行をする者は、必ず天下の民衆をも大切にしてくれるだろうと考えていたのです。

舜の孝行が両親を感化

舜は帝位を継いだ後、喜びを感じず、かえって「私がここまでやり遂げても、両親は私の事を好きにならない。このような私が天子になり帝王になって意味があるのか？」と寂しく言ったそうです。周囲の人々は彼の孝行に心を打

たれ、涙を流しました。そして舜の孝行する真心は、ついに両親と弟を感化しました。

極まる孝行

自分に対してひどい仕打ちをした両親に孝行を続けることは難しいことです。それでも自分を反省し、自らの問題を探し出すことはさらに難しいことです。舜の孝行が「極まる孝行」と称賛されたのは、これが理由ではないでしょうか。

『孟子』には「舜何人也？ 予何人也？ 有为者、亦若是！」という文言があります。つまり、「舜が孝行できたのだから、私たちにもできるはずだ」という意味です。

もし私達の誰もが舜のように、親に真心で孝行できれば、そして、それをさらに周りの人、事、物に広げることができれば、それぞれの家庭は幸せで円満になるだけではなく、社会全体も調和し、友愛に満ちるのではないのでしょうか。



写真特集

7.20活動 「迫害を終わらせよう！」



①



⑤



②



③



⑥



⑦



④

- ①ワシントンD.C.でパレード
- ②カナダ国会議員ガーネット・ジェヌイス氏「法輪功学習者を保護します！」
- ③法輪功に声援メッセージを送ったアイルランドの国会議員
- ④オーストラリア・クイーンズランドでパレード
- ⑤パリのエッフェル塔前で、キャンドルライト追悼会
- ⑥シドニーで迫害停止を求める署名活動
- ⑦ロンドン在住の于銘慧さん「無実の母を釈放して！」

心と体を鍛える法輪功

世界で1億人が学ぶ気功

お気軽に体験
してみませんか？



無料オンラインレッスン
LearnFalungong.jp



①佛展千手法



②法輪椿法



③貫通兩極法



④法輪周天法



⑤神通加持法